



國争の断章

地理国争委员会



# 地理学科の部

私は生命を争うに起つた時侯へすなわち中川会館封鎖の(ノ月16日)から再び攻撃会の議長を務めた者と今日までの経過を感じた事を述べた。

川会館封鎖時、学察委員としてその封鎖の中に身を起す積極的に暴連合との話し合いを行つた。大地教室の佐々木助教に對して、日下講師、谷田教授は、現在、佐々木先生は封鎖中に於いて人道無視行為をうけてゐる。故に、すぐさま救出すべきである。大覺的に発言したのである。しかし私の屬する之は「Aクラス」は、それと真実として受け入れらるゝに抵抗を覚悟し、直接封鎖におもむき佐々木助教を「封鎖」の中で話し合いが行はれており、身体的に危害を加へられはしない。話し合い路線は、又学部教授会の立場であり、あくまでもこれを貫徹していくと、我々に説明したのである。ここに於いて、いかに日下、谷田両先生の発言が、マニツクであつたかはさうりしたのである。

の後、学友会、又自身は、封鎖解除をうけんていふことが、危険性を合んでいと認知した。我々は、ノ月21日、マロニアリーに於いて、暴連合の人々を呼び、状況を明しても、その中で、討論を行つた。結果以下のうちアッセニアリー決議を採取した。

ノ月21日(火)  
アッセニアリー決議 (現在教 30名)  
一 封鎖問題の解決を、目下して暴生を含め、全學生の真の意見を十分に反映せしむるよう話し合いの場を即ち、各校側が設けることを要求する。

一 ノ月20日の会堂集会で8日間<sup>2週間</sup>に渡る学察委員会の左の方の努力も一日にして、次にしてしまつたのは誰か。  
賛一 20 反一 / 保留一 4

一 学校側は学察委員との意見統一を討つことを要求する。  
賛一 20 反一 / 保留一 4

この中には、片青の諸君も加つていたのである。にもかかわらず、ノ月22日の夜から23日にかけて、学友会執行部と名のる、愛ヘル、カバ部隊は、封鎖解除の爲、中川会館を攻撃した。しかしこれは結局多くの無防備學生の先進的力でもって、粉砕された。片青は、はじめにも研に館地下へと逃げ去つたのであつた。

ノ月23日の軍政集会は、学校側が設けた集會の後をうけて、開催され、以下のことが決議された。

ノ月23日(水)

## 地理学科全回生専攻集會決議

いう我々のアッセニアリー決議にもかかわらず、ノ月22日の学友会執行部を中心とする学友の武力行動に對して断固自己批判を要求する。16日以來の学友会態度に對しても全面的に自己批判を要求する。

二、学校側は、再発態度を明らかにし封鎖問題解決の爲の話し合いの場所に即刻出席せよ。現在暴連合の責任は、学政当局にあり全面的に自己批判を要求する。

三、学察生諸君は、学校側が現在の川川会館封鎖の事態を認め、真の民主的教学生体制を確立した時は、良識ある態度で、たゞちに封鎖を解除せよ。

四、学政当局は、ノ月22日に於ける、武力的封鎖解除に提供した物品資財を明示し、負傷者に對して全責任を要する。

五、我々は、実力による封鎖解除に對し断固反対する。

23日に於いて、佐々木助教を含め、又学部三役が辞表を提出し、事實上問題は未解決のまま放置された。そして24日に於ける、全回生院生集會では、確認事項として以下のことが挙げられた。

一、十七日の大塚部長由明の白紙撤回要求  
二、総長の自己批判要求  
三、佐々木助教の持表提出から元非民主的体制に對して教員、院生、學生が一体として

十、直々の民主生命建設のため、斗争していく  
24日の軍政集會では、25日下院認した。このとき果て体たする爲に、研究室、協材部の荒民が、確約され、そして、26日下院は、その準備会報がもたれた。しかしその後、試験期に、川川大学当局の攻撃、駐紮、強行に押し進められ、それ故、軍政集會も、突撃と作作、わなひものとなり、又、教授に出席を求め、出席しないといふ状態になつてしまつた。

この時、川川大学当局は話し合い路線を、彼女に對しても放棄してしまつた。それ故、我々の斗いは必然的に地理教員を以て、大学当局、現体制へと向いたのである。彼らは、あらゆる暴力をもつて、我々の斗争を圧殺しようとしてゐるが、我々は決してそれに向けないだうし、そついで、犯罪の行爲を、大衆的、下、バロシして、我々の斗争を、世に傳へようとする。

と、して、あつた。

良心的知識人又は擬装せる民主主義者への

翻る者まらのアジテイション

どんなに、彼等も  
 義人曰く、我々の責任にほぼゆるる  
 それを我々が、われらための手続の  
 だんを、すし進めよう  
 種々の口を、口にくみ、みせあつ  
 ぶさけつ、ついでに、こころも  
 吾は我々を、しんげつめよう  
 けつ、わかし、とを、種々のためには、  
 ついでに、吾等の、進め、しんげつめよう、  
 吾は、何れか、  
 一、彼等、ハ、我々の、進め、しんげつめよう、  
 何れか、吾々の、  
 大に、我々の、  
 属、我々の、  
 心、我々の、  
 世界、我々の、

何れか、吾々の、  
 大に、我々の、  
 属、我々の、  
 心、我々の、  
 世界、我々の、  
 何れか、吾々の、  
 大に、我々の、  
 属、我々の、  
 心、我々の、  
 世界、我々の、

本業の自覚性に対する、  
 本業の自覚性に対する、  
 本業の自覚性に対する、

縦横或陽下  
 本業の自覚性に対する、  
 本業の自覚性に対する、  
 本業の自覚性に対する、

縦横或陽下

何かを勝ち取るつ争と思ひ、給ふな  
 我々は唯、思ひ、と語るを、勝ち取るだけだ

世界が不条理なものでない  
 我々の存在そのものが不条理なものである

現体制は、我々の、  
 我々の、  
 我々の、

幸福とは、自分と同じ思ひ、  
 幸福とは、自分と同じ思ひ、

人、我々の、  
 人、我々の、

（集書業館心）

声  
 歌  
 詩  
 小説

我々の、  
 我々の、  
 我々の、  
 我々の、



我々の、  
 我々の、  
 我々の、  
 我々の、

我々の、  
 我々の、  
 我々の、  
 我々の、

我々の、  
 我々の、  
 我々の、  
 我々の、

我々の、











